

令和4年度専門領域推進部神経理学療法領域研修会 活動報告書

日 時：令和5年1月29日（日） 9時～12時

形 式：オンライン開催（Zoom）

内 容：講義 『姿勢制御の理論と実践への応用』

講 師：鮎川 将之 氏（社会医療法人 加納岩 山梨リハビリテーション病院 理学療法課 課長）

参加者：90名（県内34名、県外56名）

内容の詳細：

神経理学療法領域の脳卒中患者に介入する機会は非常に多い。行っている理学療法は適切に提供できているのか、エビデンスに基づく治療を行うことが本当に患者にとって最適なのか、ヒト本来の機能回復の一助になっているのかと悩むことは臨床場面で多々あると思われる。

姿勢制御は環境への適応行動の基盤となり、ヒトが動作を行うために必要不可欠である。そのシステムを理論的に知り、患者に起きている現象をどのように捉え、どう治療するのかを知することは理学療法士のにとって欠かす事ができない。提供している理学療法が患者に還元できるよう姿勢制御の理論と実践の結びつけができる事を目的に、山梨リハビリテーション病院理学療法課課長である鮎川将之先生に講師を依頼した。

先生は姿勢制御という壮大なテーマから、参加者がイメージを持ちやすいように多くの具体例動画を示してくださり、視覚的にも非常にわかりやすく、興味を持ちやすいように進めてくださった。また理論をもとに、治療を進めることで、患者が変化していく様子を動画を通して確認させて頂いた。理論を学ぶことが評価、治療につながり、1回の理学療法介入でも大きな変化を与えることができる事を示してくださった。しっかり結果が返ってくるということを感じられ、参加者にとっては勇気や希望をもたらしにくれたと思う。

変化を出すことの難しさは日々の臨床で感じることだが、講義の中で実際の患者を変化させることを1度の理学療法介入で生み出しており、理論と実践する力があるところまでも変化するのかとまざまざと見せられた。先生は治療がうまくいっている時には患者自身が『軽くなる感じがする』という言葉がくると話されていた。楽に動かせることは効率的な動作が可能となっており、先生も患者も笑顔で治療されていることが非常に印象的だった。可能であれば対面による講義を開催し情熱を生で感じたい。

質問も多くあり、研修会終了後にも時間内に質問できなかった方から質問が出るなど大変好評だったと思われる。後日先生より返答をいただき参加者に送付するなどの対応を行った。

全体を通して、滞りなく運営することができた。今後もオンラインでの研修会の開催は継続していくことが予想されるが、臨床家として働く以上、実際の場面で患者が変化する様子を見て・感じられる機会が増えてくることを切に願う。

文責：公立置賜総合病院 小関 渉